

## 周縁の存在

明らかに、COVID-19 のパンデミックは、私たちの社会・政治的な危機をさらに複雑なものにしています。

2016 年 11 月以来、特に学齢期の子供たちを中心に、自分たちの将来の不安定さや不安に耐えてきました。確かに、2016 年 11 月のゼネスト以降、本校は休校の状態が続いています。裕福な家庭や、フランス語の地域に親類のいる家庭は、子どもたちをバイリンガルスクールに入学させています。安全対策のため、私たちの地域の公務員もほぼ全員が移動しています-人口の約 6 割が移動しています。

残された家族は、小企業を経営したり、学童たちにベニエを売ったり、自らの農場で生産されたものを売ったり、近所の整備士として働いたり、地域の小さなレストランを営んだり、質素でありながら立派な生活ができるように日々生計を立てている人たちです。

言うまでもなく、社会政治的な危機は、**国全体**に影響を与えます。何日も何ヶ月も前から、動きもなく、商業もなく、お金の流通もないゴーストタウン、**ヴィル・モルテ**に住んでいます。

当院は開院したままですが、お金がないために患者の受診は少なくなっています。神聖な儀式である大切な人の葬儀でさえも、武力衝突による不安から行うことができません。家や村にいる私たちの怠惰な若者はどうなるのでしょうか？一員を暴力によって亡くしてしまった家族は？危機の間に、焼かれて破壊されてしまった家々は？

COVID-19 が大流行する前、私たちは、パストラル・ミニストリーと司法・平和省を通して、喪に服しているすべての人々のために毎日 6 時のミサに出席し、NGO と協力して村に助けをもらし、家族に主食を提供し、病人に聖体拝領をもらし、家族のための使徒活動を継続し、私たちと同じ道を歩む人々に挨拶をしていました。

COVID-19 が私たちを減速させる一方、多くの国では、監禁がパンデミックと戦うための最良の方法であることを証明しています。残念ながら、カメルーンの社会経済政策により、この戦略を効果的に実施することは困難です。失業手当は存在せず、政府は、カンボ教区を含め、インフォーマルセクターで生活している人口の大多数、特に小規模事業で生活している人たちに、食物の入ったバスケットを提供することができません。これは、他のアフリカやヨーロッパの国々と違い、監禁が厳しくない理由の一つです。

すでにいくつかの医師によって使用されているクロロキンとは別に、それは正式に、クンボの大司教であり、自然療法の医師であるサミュエル・クレダ大司教が、COVID-19 に苦しんでいる患者を和らげる薬を発見したと発表されました。この治療法が効果を発揮し、正式に実行可能な製品として認められますようにお祈りしています。社会経済的な観点から見ると、カメルーンは COVID-19 に直面する準備ができていないというのが真実です。

□



ファリーたちのもう一つの関心事は、クンボ教区でトラウマに苦しんでいる多くの人々に救済をもたらすことです。

このような困難な時期には、意図的に私たちの存在の質、傾聴の質、思いやりの心を重視するようにしています。みんなで生活しているのにも関わらず、ストレスを軽減するために、音楽教室を開いたり、運動場を作ったりしています。女性、男性、若者、子供、男女の宗教者、司祭など、誰にでも参加してもらうことができます。



雨期がやって来ました！種が蒔かれ、大地は発芽し、成長し始めています。トウモロコシ、インゲン、マメ、マカボ、ヤマイモ、プランテンなどの新芽はすべて、より良い日々への希望を新たにしてくれます。朝5時45分に日が昇ると、晴れやかな気持ちになります！

シスター・セシル・ブアット CND ファリー・ミンクエ・ンゼ CND